

買物は投票だ！  
資源循環の社会経済へ  
地産地消を



News !

2025.2.10

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク

●〒565-0842 吹田市千里山東 1-14-26 ほぼエコcafé & Gallery NAZ(ナーズ)内

●年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)

●郵便振替 00920-8-154437 ●TEL06-7222-8005 ●E-mail greencon@g2.xrea.com ●<http://www.greencon@g2.xrea.com>

# 大阪湾への流入プラスチックを

ブルーオーシ  
ャンビジョン  
の目標

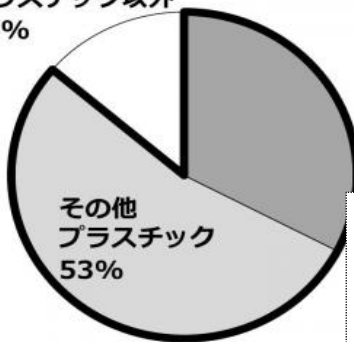
## 2030 年までに半減するには？

国際プラスチック条約に関する会合は、2024 年 11 月にプサンで 170 か国が参加しましたが、アメリカやサウジアラビアなど産油国の反対で、結論が持ち越されました。

生産量がアメリカに次ぐ第 2 位の日本は、プラスチックの国際規制について、アメリカと同じく生産量規制に反対、さらに有害化学物質の規制に難色を示しています。

環境省の調査では、日本周辺海域で北太平洋の 16 倍のマイクロプラスチックが確認されています。何千という河川から陸のごみが海に流される日本近海の海のプラスチック汚染は深刻です。大阪湾のプラスチックごみの内訳は、下記のグラフのとおりで、9 割弱が生活に使用するもの。そして、関西広域連合のしらべでは、レジ袋 3 0 0 万枚、ビニール破片 6 1 0 万枚も海底ごみの 8 割を占め、回収は極めて困難としている。国や自治体は発生抑制を第 1 義にし、使い捨てプラスチックの使用抑制をすすめ 2030 年までに流入プラスチックの半減の具体的なロードマップの提示を。

プラスチック以外  
14%



食品包装材・  
レジ袋・  
ペットボトル  
33%

大阪湾のごみの 8 割は陸路・河川から（環境省、関西広域連合、大阪府、大阪府が定期的に調査（2023 年データ）

### プラスチック汚染 3 つの問題

石油を原料とする過剰生産が気候変動を加速。海に流れ込むプラスチックは生物多様性を損失。海底に堆積する有害物を含む廃棄物。豊島事件を 2 度と起こさないとした瀬戸内法の実践で、廃棄物の回収と徹底的な分別と資源化するシステムによる事業の創設。回収資源の再製品化など循環経済の本格的な実践を。

### プラスチック若者会議（2024.10 グリーンピース Japan）が政策提言とアクション

★パリ協定 1. 5℃目標達成には、温室効果ガス排出削減のために「リデュース」が第一位に、世界共通の総量削減目標を明記のこと

★使い捨てからの脱却、リユースの推進にリユース製品・事業への公的支援

★条約に、各国がプラスチックの不適切な廃棄に対する罰則を新たに設ける、あるいは強化することを義務づける ★2040 年までのプラスチック削減目標の具体的な計画の策定